



数字でみる「ココが変だよ!!」日本の家

暑すぎる家

地球温暖化は進み、東京の夏は東南アジアの国とさほどかわらない気温です。

こんな環境では熱中症の危険性は高くなる一方、実は熱中症の発生場所が一番多いのは「家」なのはご存知でしたか？

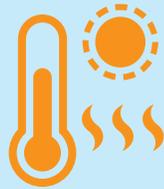
快適そうに見える家の中でも、家の性能次第で危険な場所になってしまうのです。

日本の夏は暑すぎる

(2019年8月の月最高平均気温)

東京

32.8°C



シンガポール

32.6°C

バンコク

33.5°C

日本全国の熱中症救急搬送数と死者数

(出典：消防庁 / 2019年5月から9月の熱中症による救急搬送状況)

救急搬送数

71,737人

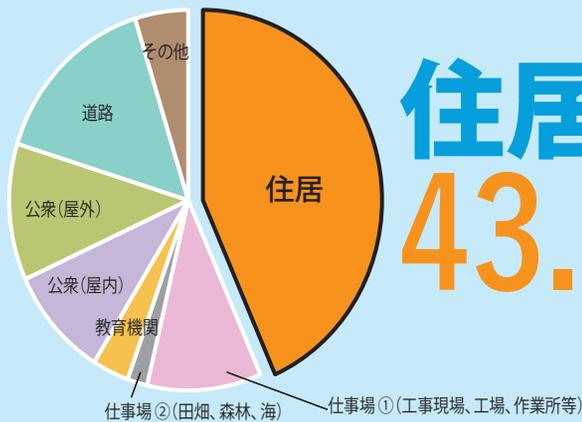
死者数

126人



熱中症の発生場所

(出典：消防庁 / 2019年8月の熱中症発生場所)



住居 43.4%

住宅内の熱中症の発生場所

(出典：厚生労働省 / 熱中症対策に関する検討会・熱中症データベース2010)

居間・リビング

39%



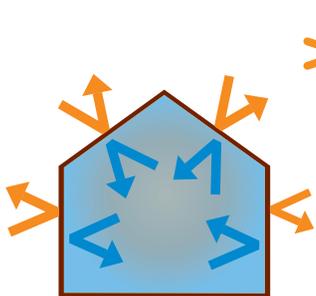
寝室・就寝中

32%



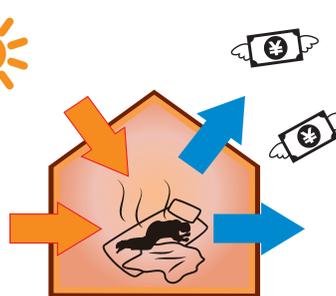
家の中で熱中症になる一番の問題は、家の断熱性能と気密性能の低さです。

エアコンの効いた家の中に居れば涼しくて快適というイメージですが、エアコンをつけっぱなしにすることに抵抗がある人は多いのではないのでしょうか？
電気代が気になるから節電のために我慢している人も多く、特に就寝時にエアコンをつけたまま寝ると寒くなってしまい、体調を崩してしまう人も少なくありません。エアコンを使うと電気代が掛かり過ぎるのも、エアコンを切るとすぐ暑くなるのも、家の断熱性能と気密性能が低いことが原因です。



断熱性能・気密性能が高い家

- ・外の熱気をシャットアウト
- ・冷やした空気が逃げていかない



断熱性能・気密性能が低い家

- ・外の熱気が家の中に伝わりやすい
- ・冷やした空気が逃げていく(電気代も)

断熱、気密の両方の性能が高い家は、外から入ってくる熱をシャットアウトすることができます。くわえて、隙間も少ないからエアコンで冷やされた空気を逃すことなく、家の中でキープさせられます。なので、少ない電力で効率的に家全体を冷やすことが可能になるのです。

反対に断熱・気密の性能が低い家は、外の熱の影響を受けやすく、エアコンで冷やしてもすぐ暑くなってしまい、さらに、隙間から冷えた空気が逃げていくので、家を過ごしやすく快適な室温に続けるためには、エアコンの電力を上げて稼働し続けなければなりません。

断熱・気密性能の低い家に住むことは熱中症の危険も高くなり、省エネ&節約もできなくなってしまうのです。

※この理屈は、寒い場所と温かい場所をの逆転で「冬場」も成り立つのです。